



# 東工大 キャリアアップMOT 経営経験者との対話で学ぶ 技術経営セミナー

## ～CUMOT×STAMP 連携プログラム～ (2023年度 8期生) 説明会 @web

(前半)

○CUMOTとは

- 技術経営士の会ご紹介/ご挨拶
- 実施概要/募集要項/スケジュール
- カリキュラム・講師紹介

(後半)

- 受講実績/受講イメージ紹介
- FAQ/アンケートのお願い

STAMP  
技術経営士の会  
Society of Technology and Management Professionals

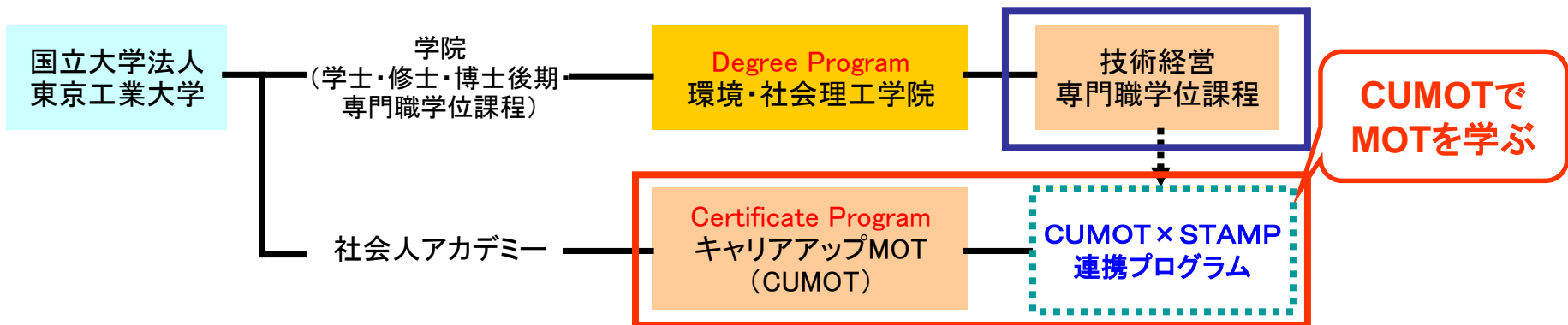
×



# キャリアアップMOTとは？

CUMOT(キューモット)は、“Career Up MOT”の略称です。社会人の方が働きながらMOT(Management of Technology: 技術経営)の学びを通じて、キャリアアップを図ることを支援します。

本学の「社会人アカデミー」のプログラムの1つとして位置付けられ、環境・社会理工学院(技術経営専門職学位課程)が事業主体となり実施しております。学位等を認定する「degree program」ではなく、プログラム受講の修了を認定する「certificate program」という位置づけになります。



# ご挨拶

STAMP

技術経営士の会

Society of Technology and Management Professionals

## 技術経営士の会

(Society of Technology Management Professionals)

講師代表 三木 一克

技術経営士は、“高齢技術者の技術経営に関する知見を社会に活かす”ために、一般社団法人技術同友会が創設した資格です。そして、技術経営士の会は、技術経営士個人での活動には限界があるので、有志が集まり組織を創り、より積極的に技術経営士の活動を支援するために結成された組織です(任意団体)。

<https://stamp-net.org/>

# 実施概要/募集要項

## 受講期間

2023年11月9日～2024年2月10日（ガイダンス、修了式含む）  
 全10回 木曜開催（一部土曜開催）19時～21時20分（1回2時間、休憩20分）  
 ※講義およびクラス全体でのグループ学習（ディスカッション）をします。  
 ※11/9は受講ガイダンスをZoom（オンライン形式）を行います。  
 ※2/10は土曜（14～17時、休憩兼討議時間含む）に開催します。  
 ※学習テーマによっては一部、変更になる場合があります。

## 受講対象者

次世代の企業経営や組織マネジメントを担う社会人の方

具体的には、下記のような方を歓迎します

- ・企業経営の経験者から直接、話を聞いたり、議論をしたい
- ・組織のメンバーとして経営者の考え方や意思決定の方法、リーダーシップなどについて学びたい
- ・同じ志や意欲を持つ仲間との交流やディスカッションを楽しみたい
- ・一方的に話を聞いたり教わるのではなく、双方向で主体性を持って学びたい
- ・CUMOTで他のコースの受講経験があり、新たに学ぶ機会を得たい
- ・MOT、MBA、社内研修等、経営学の分野での学習経験のあり、新たに学ぶ機会を得たい
- ・事業運営、新規事業、海外事業展開、研究開発など、企業経営やマネジメントに関する知見やヒントを得たい

## 受講場所

対面講義形式は田町キャンパスにて、オンライン講義形式はZoomにて受講となります。  
 東京工業大学田町キャンパス（東京都港区芝浦3-3-6 CIC）310教室  
 ※オンライン講義の受講に必要な通信環境は受講者にてご用意ください

## 募集人数

20名 ※最小開催人数12名

## 申込期間

2023年9月1日（金）～10月13日（金）（締切日必着）

※定員に達した場合、募集を終了します。  
 ※企業派遣など上記期間での対応が難しい場合はご相談ください。

## 受講料

99,000円（消費税込） ※お支払い方法については受講認定後に振込みにて手続きをしていただく予定です。お振込み後の受講料の返還はいたしませんのでご了承ください。

## 申込方法

願書に必要事項をご記入のうえ、下記の住所までお送りください（締切日必着）。  
 ※PDFファイル等、電子ファイルでのご提出も受け付けます（cumot-info@mot.titech.ac.jp）。  
 メールを送受信をもって押印・署名扱いとさせていただきます。  
 〒108-0023 東京都港区芝浦3-3-6 CIC910  
 CUMOT事務局 STAMP連携プログラム受講申込担当

## 受講審査・受講通知

願書をお送りいただいた後、志望理由書等にもとづく書類審査をいたします（申込順審査、願書受領後1週間以内）。受講審査の結果についてはメールにてご連絡いたします（受講許可を通知）。

## お問い合わせ

東京工業大学 CUMOT事務局  
 お問い合わせ先E-mail : cumot-info@mot.titech.ac.jp  
 ※受講についてお問合せがある場合は、メール等にて個別相談にも応じます。

対面形式（田町キャンパス）とオンライン形式（Zoom）の併用により、対面参加の方はより対話をしやすく、オンラインの方は、遠方や業務都合がある方が参加のしやすい学習環境

# カリキュラム(1)

## プログラムの目的

本プログラムは、技術経営を実践する次世代の企業経営を担う人材を対象に、技術経営士の会(STAMP)のメンバーが持つ「企業経営」「新規事業開発」「研究開発/技術開発」などの豊富な実務経験をもとに、「実践例と討議課題の提示」「グループ討議/発表と解説」を通じた事例研究に取り組みます。

# カリキュラム(1)

## 受講対象者の例

次世代の企業経営や組織マネジメントを担う社会人の方  
具体的には、下記のような方を歓迎します

- ・企業経営の経験者から直接、話を聞いたり、議論をしたい
- ・組織のメンバーとして経営者の考え方や意思決定の方法、リーダーシップなどについて学びたい
- ・同じ志や意欲を持つ仲間との交流やディスカッションを楽しみたい
- ・一方的に話を聞いたり教わるのではなく、双方向で主体性を持って学びたい
- ・CUMOTで他のコースの受講経験があり、新たに学ぶ機会を得たい
- ・MOT、MBA、社内研修等、経営学の分野での学習経験のあり、新たに学ぶ機会を得たい
- ・事業運営、新規事業、海外事業展開、研究開発など、企業経営やマネジメントに関する知見やヒントを得たい

経営に関する学習経験が無くても、  
経営やマネジメントに関する問題  
意識があり、主体的に学ぶ意欲を  
お持ちの方を歓迎します！

※幹部候補生などの育成の機会として  
活用を検討されている企業派遣も歓迎です

# カリキュラム(2)

## プログラムの学習目標

戦略的技術経営の実践における課題認識と解決に必要な考え方の修得

## プログラムの特徴

- (1) 経営や事業のマネジメントに関する豊富な経験を持つメンバーが所属する「技術経営士の会」との連携
- (2) 技術経営士のメンバーによる「生きたケース(事例)」を通じた学習
- (3) 受講生自身が考える技術経営士からの「討議課題の提示」とMOTや経営学の学習や実務経験を持つ受講生同士による議論
- (4) 田町キャンパスでの対面形式とZoomによるオンラインで「対話で学べる」学習環境（通学しやすい田町キャンパスと場所を問わずに参加可能なZoomの併用）

## 学習形態

## カリキュラム (3)

「対話」のため  
受講人数は限定

※休憩時間の20分間も討議時間に活用！

学習形態/時間の目安	前半(60分)	中盤(20分+休憩20分)	発表とまとめ(30~40分)
講義・事例提供 ディスカッション	講師より実践例の紹介と討議課題が提示されます。	討議課題にもとづき、グループ討議(対面またはブレイクアウトルーム)をします。	討議結果の解説およびQ&A、意見交換などを行います。
(事前・事後)	学習者は、自らの知識レベルや週末等の自由時間に合わせて推奨書籍の読書、事前課題(資料)の読書、グループ学習支援システムを通じた意見交換等によって学習します。また、提示された事後課題を検討します。		

※講義・事例と討議テーマの提示(30分)→グループ討議と発表(30分)→討議テーマの提示(15分)→グループ討議と発表(30分)→まとめ(15分)、など講師により異なります

**講師(経営経験者)**からの問題提起や討議テーマの提示により、**受講生同士(1対多)**で**ディスカッション**を通じて学び合い、**グループ発表**による**1(講師)対多(グループ)**だけでなく、**1(講師)対1(受講生)**、**1(受講生)対1(受講生)**の意見交換やディスカッションを通じて**クラス全体**で**学び合い**をします。



# 講師紹介

STAMPは、大学、官庁、企業、団体等で赫々たる業績を上げられた方々の知見を世の中に還元する仕組として「技術経営士」の資格を創設しています。本プログラムはメンバーの中でも人材育成や教育に熱心な方々に講師として協力いただいています。

**【実務経験豊富なSTAMP講師陣】** 登壇予定順

潮田 邦夫(元 株式会社NTTドコモ常務取締役法人営業本部長)

岡部 聰(元トヨタ自動車株式会社専務取締役)

山浦 雄一(元 国立研究開発法人宇宙航空研究開発機構(JAXA) 理事)

木下 泰三(元株式会社日立製作所 ICT統括本部 IoTクラウドサービス事業部 事業主管)

三木 一克(元 株式会社日立メディコ代表執行役執行役社長)

井上 保(元 富士通テレコムネットワークス株式会社代表取締役社長)

海野 忍(元 NTTコムウェア株式会社代表取締役社長)

杉山 清(元 NECソリューションイノベータ株式会社代表取締役社長)

中村 房芳(元 株式会社IHI代表取締役副社長)

野呂 一幸(元 大成建設株式会社常務役員 設計本部長)

※個別プロフィールについてはCUMOT Webサイトにて紹介

<https://www.academy.titech.ac.jp/cumot/stamp/lecturer.html>

# スケジュール・担当講師・事例概要(1)

回数	日程	学習テーマ	担当	経歴等
-	11/9	受講ガイダンス	古俣 升雄	東京工業大学 環境・社会理工学院 CUMOT特任教授
1	11/16	技術の創出と経営の判断 ～通信技術と携帯電話の新たな市場の創出～	潮田 邦夫	元 株式会社NTTドコモ 常務取締役法人営業本部長
事例概要	本事例は、NTTドコモ社で携帯電話の拡大の転機となったi-mode開発と、ワイヤレスソリューションの世界を広げ、携帯ワールドの基盤づくりを図った内容である。			
問題提起	新サービスの創出には、「社会背景」を洞察し、サービス実現には「社外の組織や人々との協調」も必要となる。そして、経営者には、自ら判断/決断したことを実践するため「自らを邁進させていく力(モチベーション)」「周りを巻き込む推進する力(人材マネジメント)」「イノベーションを推進させる力(リーダーシップ)」が必要である。 これらをNTTドコモでの事例の講義を基に、技術系の経営者に必要な資質能力を、そしていかに身につけていくかについてディスカッションしたい。			
2	11/30	経営における問題解決・事業展開のポイント ～新興国を中心とした海外事業の事例研究～	岡部 聡	元トヨタ自動車株式会社 専務取締役
事例概要	本事例は、元東京工業大学川喜田教授から学んだ野外科学の考え方をベースに、トヨタでの新興国事業展開における問題解決の事例である。			
問題提起	新興国の事業展開においては、「ニーズの把握が出発点」であり、そのニーズを満たす、「問題解決に必要なものは何か」を考える必要がある。講義の中で説明する「誰にでもできるパイオニアワーク」を理解してもらったうえで、海外事業展開のポイントについて議論したい。			

木曜 19～21時20分

(対面形式@田町キャンパスとオンライン形式@Zoomの併用)

※事例や問題提起は現時点のもので変更になる場合があります

# スケジュール・担当講師・事例概要(2)

回数	日程	学習テーマ	担当	経歴等
3	12/7	壁を壊し意識を変えるチームビルディング はやぶさ2: 開発期5つの苦難を打破した変革	山浦 雄一	元国立研究開発法人宇宙航空研究開発機構(JAXA) 理事
事例概要		小惑星探査機「はやぶさ2」は開発段階で5つの苦難を抱え、開発完了・打上げさえ危ぶまれた。プロジェクトチームは責任感で無理を重ねた。組織間の壁、意識の壁が行く手を阻んだ。事態を打開したのは経営(講師)によるセオリー破りのチーム再構築。チームビルディングが壁を壊し意識を変え、開発完了から運用成功に至る強固なジャパン「協働」チームを生んだ事例を学ぶ。		
問題提起		プロジェクト成功もイノベーション創出も、「他者」との信頼関係ある「協働」があって実現する。今日、「協働すべき他者」は異業種にも拡がり、異文化同士(例えば、大企業とスタートアップ)が組み合うなど、近年の「協働」は多様化している。チームビルディングは、経営・マネジメントの重要要素である。組織間の壁、意識の壁が「協働」を阻む。「壁」を生む根源が組織の仕事文化にあるとしたら、成功も発展も望めまい。以上の問題提起と講義事例を踏まえ、「壁」の根源、仕事文化の変革、「協働」のワンチームを生む力、現場と経営の役割などについて考察し討議する。		
4	12/14	研究開発を新規ビジネスに結びつけるベンチャー起業 社内ベンチャーの立ち上げを通じた経営と意思決定	木下 泰三	元 株式会社日立製作所 ICT統括本部 IoTクラウドサービス事業部 事業主管
事例概要		本事例は、日立製作所において講師自身が立ち上げたIoTベンチャー経営の経緯と、研究所での技術開発からベンチャでの製品ビジネスや新規ソリューションビジネスの経営に関する経験を踏まえ、新事業の立上げにおける考え方や、経営戦略(ビジョン、ソリューション、コア製品、技術知財、営業、品質、財務、人財など)、また社内ベンチャーのあり方などについて、紹介すると共に受講生と議論する。		
問題提起		ITベンチャーの経営者CEOに必要な事は何か？ ①ビジョン、②事業戦略(市場・営業・技術知財・製品・ソリューション・品質)、③財務、④人財、⑤コーポレートガバナンス。などについて議論したい。		

※事例や問題提起は現時点のもので変更になる場合があります

# スケジュール・担当講師・事例概要(3)

回数	日程	学習テーマ	担当	経歴等
5	12/21	テクノロジーの進化がもたらす産業構造・社会生活の変化と新たな事業機会 新たな競争軸(CASE)の出現	三木 一克	元 株式会社日立メディコ 代表執行役 執行役社長
事例概要		Connected(つながる車)、Autonomous(自動運転)、Shared(シェアリング)、Electric(電動化)から成るCASEの出現は、交通革命を生じるだけでなく産業構造と社会生活にも大きな変化を引き起こす。 変化する将来において新たな事業機会を創出するチャンスが到来すると期待される。		
問題提起		産業構造・社会生活に以下のような大きな変化が生じると予想される。 ①自動車産業はEVの普及に伴って、生産基盤が非連続的に変化し産業構造のパラダイムシフトが生じる。②自動運転OSの開発を通じて、巨大IT企業GAF Aや新興勢が自動車産業に参入してくる。③EV用蓄電池により再生可能エネルギーの負荷変動が平準化され、太陽光発電の家庭での利用が拡大する。④次世代交通サービスMaaSは「移動」の概念を一新し、交通の利用効率を大幅に向上する。⑤実証都市「Woven City」プロジェクトが2021年にスタートし、都市デザインの刷新が試みられる。 本講義では、「変化する将来に向けて私ならこのようなイノベーションを行う」という課題で、関係するあるいは思いつく製品・サービスや事業でのイノベーションを提案していただき全員で議論したい。		
6	1/11	経営者視点の実践的開発プロジェクトマネジメント ～多様なステークホルダーが関わるシステム開発のプロジェクト運営～	井上 保	元 富士通テレコムネットワークス株式会社代表取締役社長
事例概要		プロジェクトマネジメント(PM)において「失敗しないための実践的な知恵」を学ぶとともに、プロジェクトのゴールを左右する「ステークホルダーの存在」とプロジェクト運営に関わる「人の思いと行動特性(グローバルに共通)」について理解を深める。ケースを通して炎上プロジェクトの立て直し、DX(デジタル変革)を進める上での留意事項について考え、討議する。		
問題提起		プロジェクトは有期(期間が決まっている)&目的(目指すゴール)&制約条件(ヒト、モノ、カネ)を有するものです。 皆さんの働く場(業種、業務内容を問わず)で、「コト」・「モノ」を実現するためプロジェクトやチームが編成され、多くの人がプロジェクトやチームで協働しています。経営者やマネジャーには組織やプロジェクトを目指すゴールに導くマネジメント力が要求・要請されます。 日本ではPM試験が情報処理技術の資格試験の一区分であることに象徴されるように、情報処理に関わる方のみがプロジェクトマネジメント(PM)を体系的に学んでいる可能性があります。最新のPM知識体系は、従来のプロジェクトの運営ノウハウに加えて、VUCA時代を反映した価値創造を意識したアジリティ(俊敏性)と価値創出が追加されています。 今回の受講を通じて、情報処理以外の方も「マネジメント」を実践的に学び、チームの運営など実務に活かされることをお勧めします。 実務を円滑に・楽に・楽しく進めるための実践知として「実践的プロジェクトマネジメント」を一緒に学びましょう。		

※事例や問題提起は現時点のもので変更になる場合があります

# スケジュール・担当講師・事例概要(4)

回数	日程	学習テーマ	担当	経歴等
7	1/18	組織の成長に欠かせないベンチャー精神 大企業における組織の再活性化	海野 忍	元 NTTコムウェア株式会社 代表取締役社長
事例概要		本事例は、大企業の中で社員の活性化を図る方法について、その具体的施策をハード面、ソフト面に分けて提案するものである。ベンチャー企業ではできることが、企業が発展し規模が拡大するにつれてできなくなる理由を分析し、それを防ぐ方法について考察していきたい。		
問題提起		企業が大規模化するとともに、各社員は全社のことが見えにくくなり、全社のためではなく自分のため、自グループのために働き始める。それによって、よく官庁で言われる「省益あって国益無し」と同じ現象が起ころはじめる。ベンチャー企業であれば社員全員が全社のことを考えて仕事を進めることができるのに、それが企業規模が拡大するにつれてできなくなるのが現実である。それを防ぐ方法について、講師自身が経験した事例を示しつつ議論をしていただきたい。併せて「働く」ということの本質に立ち返り、昨今話題の「働き方改革」についても考察したい。さらに、昨今の「DX」が働き方に与える影響についても議論したい。参加各位は自社で起こっている問題点を明確化し、その原因分析と対処方法を検討してほしい。		
8	1/25	経営資源の再編と経営ビジョンの策定 7社の経営統合による経営資源および事業の再編と新たな成長戦略の実現	杉山 清	元 NECソリューションイノベータ株式会社 代表取締役社長
事例概要		経営統合(合併)における事業展開や経営資源の再編と活用、事業リスクへの対応等を事例として紹介する。2014年にNECグループの成長を支える中核ソフトウェア会社としてソフトウェア開発を担う会社7社が統合した。経営統合による経営資源の最適化に加え、各社の有する先進技術、幅広い業種のお客様や地域と向き合い培ってきた知見を活用して、社会や企業を支えるシステムやソリューション・サービスの提供を目指した。経営統合においては、会社としての7社の経営統合の実現に加え、社内文化の融合、構造改革、技術者中心の人材育成体系の再編、新規事業創出、既存事業の成長、長期ビジョンの策定等、従来とは異なる多様な経営判断が求められ、これらの観点から事例を通じて議論したい。		
問題提起		同社の社長として6年間従事し退任した現在、改めてIT業界の問題を客観的に捉え、以下の経営課題をふまえたうえで、経営統合における経営上の意思決定について、受講生の皆さんと目指すべき方向性などを議論したい。 <ul style="list-style-type: none"> <li>・日本のITソフトウェア産業の構造的な問題点</li> <li>・受託ソフト開発がビジネス(人月商売)の中心であり将来性は乏しい</li> <li>・高年齢化する社員、いびつな年齢構成、社員エンゲージメントの低さ</li> <li>・事例を通して大企業におけるイノベーション、新規ビジネスの創出の困難さ</li> <li>・経営継承の在り方</li> </ul>		

※事例や問題提起は現時点のもので変更になる場合があります

# スケジュール・担当講師・事例概要(5)

回数	日程	学習テーマ	担当	経歴等
9	2/1	経営の現場と危機管理 戦略・ビジョンの役割と経営現場の危機管理	中村 房芳	元 株式会社IHI 代表取締役副社長
事例概要		経営の現場では日々リスク、クライシスへ対応してゆかなければならない。そのときのキーとなる発想は何か、(株)IHIにおける車両用過給機事業での事例を元に考えてゆくものである。		
問題提起		<p>経営の現場は危機対応の連続である。自分たちの具体的な事例に対して原因、対処方法を考えてみる。</p> <p>1) リスク発生(根本)原因、発現(顕在化)原因 2) なぜ予知できなかつたか、できたのか。 3) 事業としてのリスクまで掘り下げて、タイムリーに対処するにはどうしたら良いか、良かったか。</p> <p>受講生が提示する問題・課題について取り上げることを基本とする。</p>		
10	2/10 (土)	大型・複合・国際化するプロジェクトにおいてプロジェクトリーダーに要求される資質 海外プロジェクトにおけるプロジェクトの問題点、課題	野呂 一幸	元 大成建設株式会社 常務役員 設計本部長
事例概要		日本企業が海外で展開する多くの事業・プロジェクトは大型・複合・国際化している。本事例は、大成建設で数多くのプロジェクトで経験したことを紹介し、プロジェクトの問題点、課題を見抜き、プロジェクトリーダーに要求される資質は何かについて焦点をあてた内容である。プロジェクトリーダーは、オーナー代理人、オーナーコンサルタント、チーム内国際人材、国際契約書の手続き等、国内では考えられない問題で力を発揮しなければならない。チーム、コンソーシアムをリードするのに必要な人間力は古今東西同じである。こうした中、コスモポリタンとしての存在感を示し信念をもって問題・課題に立ち向かう姿勢が重要となる。		
問題提起		<p>プルシパル型からネットワーク型に変化したプロジェクトにおいてオーナー、コンサルタントが複数化、設計チーム・施工チームがJV(joint venture: 建設業における共同企業体)化している。プロジェクトは入手前の事前調査力、入手後のプロジェクトマネジメントにより成果が大きく変わる。プロジェクトの特性をいかに把握するか、プロジェクトリーダーのリーダーシップが重要となる。多彩な専門機能のコンサルタントとの協調が要求される。国際プロジェクトにおいて、外国人(欧米+周辺国+現地)人材を活用しなければプロジェクトは動かない。外国人スタッフを活用するには、プロジェクトリーダーの信頼獲得は必須となる。如何に捌くかプロジェクトリーダーの真価が問われる。大型・複合・国際化するプロジェクトにおけるプロジェクトリーダーの育成や資質といった観点を具体的事例を基に議論したい。今また人類の前にパンデミックとエネルギー革命が迫っている。コロナ禍とSDGsである。この二つの大きな歴史の波に対してプロジェクトリーダーとしてどう立ち向かうかを議論したい。</p>		

※事例や問題提起は現時点のもので変更になる場合があります 土曜開催は討議時間を確保のため14~17時開催



# 東工大 キャリアアップMOT 経営経験者との対話で学ぶ 技術経営セミナー

## ～CUMOT×STAMP 連携プログラム～ (2023年度 8期生) 説明会 @web

(後半)

- 受講実績/受講イメージ紹介
  - Zoomによるオンライン受講
  - Zoomを併用した対面受講
  - シラバス(例)、教材/レジュメ
  - 受講実績と評価
  - 学習支援システム
- FAQ/アンケートのお願い

STAMP  
技術経営士の会  
Society of Technology and Management Professionals

×



## 受講イメージ ご紹介

- Zoomによるオンライン受講
  - Zoomを併用した対面受講
  - シラバス(例)
  - 教材/レジュメ
  - 受講実績と評価
  - 学習支援システム
- GMSSと補講用eラーニング



# Zoomによる遠隔受講

## ➤ 遠隔(Zoom)受講ガイド

・Zoomでの受講にあたって必要な環境、操作方法、受講時の基本仕様、グループディスカッションの方法、など運用に関するガイドを事前に配布します。受講ガイダンスでは実際にお試しで操作や簡単な演習もします。

## ➤ Zoomについて

インターネット環境(+マイク、ビデオ)があれば受講ができます。CUMOTの講義は一方向のセミナーと違い、受講生が主体的に学んでいただく学習形態(クラスディスカッション)ですので、発言のために「マイク」のご用意(ノートパソコンやタブレット等であれば備え付けのもので十分)を推奨します。

## ➤ 通信環境の不具合について

本プログラムでは、通信環境の不具合や欠席時のフォロー用に独自の動画配信システム(後述)でフォローをします(本視聴環境です)。

講師などの  
ビデオ表示

第1回の内容

- ガイダンス
- 経営戦略とは何か？
- 経営戦略論の系譜と全体像、戦略サファリ
- エコシステム論
- エコシステムの分析プロセス

プレゼンテーションの投影

操作  
メニュー

# Zoomを併用した対面受講

## ➤ 田町キャンパスの教室で対面講義を実施

新型コロナウイルス感染状況が落ちついており、大学および東京都等の方針をふまえて対面講義を実施できる環境が整った場合、田町キャンパスの教室で対面講義を実施

## ➤ 田町キャンパスの教室からZoomを配信

教室で講師が使用するパソコンでZoomを使ってプロジェクターに投影して投影講義を実施。オンラインでの参加を希望する方は、Zoomの画面や音声を共有して受講が可能。

## ➤ グループワーク/ディスカッション

Zoomのブレイクアウトルームという機能を使うことで、グループに分かれてディスカッションなどができます。教室ではCUMOTの貸し出しパソコンでZoomを共有することで対面の受講生とオンラインの受講生が同一グループとしてディスカッションが可

※受講ガイダンスは初回として、オンラインのみで実施

# シラバス

テーマ、スケジュール  
担当講師プロフィール

事例概要

事前・事後の学習案内

学習内容の詳細

推薦図書

コース名	CUMOT × STAMP 連携プログラム
タイトル	技術の創出と経営の判断
副題	通信技術と携帯電話の新たな市場の創出
日時	2022年11月17日(木) 19:00~21:20 (休憩兼討議 20分含む)
担当講師	潮田 邦夫 元(株)NTTドコモ常務取締役法人営業本部長
メールアドレス	
HPアドレス等	<a href="http://stamp-net.org/">http://stamp-net.org/</a>

1. 事例概要

本事例は、NTTドコモ社で携帯電話の拡大の転機となったi-mode開発と、ワイヤレスソリューションの世界を広げ、携帯ワールドの基盤づくりを回った内容である。

2. 事前知識 または 授業の前後に学習してもらいたい知識

事前	i-mode開発について事前に調べておき、各自がi-mode開発が成功した要因を考えておくこと。参考WEBは「i-mode開発で下記のキーワードと合わせて検索すると記事が抽出される。 i-mode開発の裏に剛腕社長あり! ネット史に輝く金字塔、「i-mode」生んだ運命の出会い! NTTドコモがアップルになれなかつた理由とは!」 YouTubeでは、i-modeビジョン2010(MDEO-CULTURE SYMPHONY)とi-modeビジョン2020(MDEO-CULTURE SYMPHONY)を閲覧のこと。 2010 <a href="https://www.youtube.com/watch?v=J6K4W0gD3Q">https://www.youtube.com/watch?v=J6K4W0gD3Q</a> 2020 <a href="https://www.youtube.com/watch?v=9RV8-p-dEQ">https://www.youtube.com/watch?v=9RV8-p-dEQ</a> 中国ではQRコードを活用したキャッシュレス化が進みQRコード生みの親の日本でキャッシュレス化が進まない社会的背景の違いを考えておくこと
事後	事例でディスカッションした論点について、時間内で議論できなかったところ各自で議論すること。自身の会社での開発や新規サービス開発との比較をする。技術、開発体制、会社の体質など。

3. 学習内容

形態	時間	テーマ、補足説明
講義 & グループ or クラス 討議	19:00-21:10 (休憩兼討議 20分含む)	① 発明と革新(開発と利用)の違いと技術者の目指す分野 ② 通信業務 ~通信技術の時代背景~ ③ ワイヤレスマーケットの創生 ~i-mode サービスとワイヤレスソリューション~ ④ 技術経営に必要な能力 ~イノベーションと志~ 講師から提示されたディスカッション課題にもとづいて、グループやクラス全体で討議を行う
まとめ 質疑応答	21:10-21:20	講師からの解説(まとめ)、質疑応答

※時間内で「講義(話題提供)」と「問題提起(ディスカッションテーマ)」を複数回提示し、クラス全体で討議をする

※対面講義およびZoomでの配信講義

4. 問題提起

新サービスの創出には、「社会背景」を判断/判断したことを実践するための「自らを推進させる力(リーダーシップ)」がこれらをNTTドコモでの事例の講義を基にした。

5. 推薦図書

図書名	出
技術経営の権威	ちくま新書
i-modeの猛獣使い	講談社
組織も戦略も自分に従う	中公新書

シラバスの配布により、  
受講前に学習内容や学習目標を  
確認してイメージ。  
学習テーマに関する予習や事後  
学習、推薦図書など、自己学習に  
必要な情報も掲載。

# 教材・レジュメ

## ※原則PDFファイルにて事前にプレゼン資料を配布

**沸騰都市ドバイの成立と現状**  
～大成建設の事業進出を議論する～

2016年6月30日

CUMOT×STAMP 連携プログラム  
野呂一幸

Textbook Vol.1

ドバイを探索する上で知っておきたいこと

- 歴史
- 地理
- 気象
- 人口
- 経済
- 都市インフラ


Textbook Vol.2

開発地区の変遷  
開発地区ABCDEFGHIJとプロジェクト

Textbook Vol.3

日本の建設会社の海外進出  
ドバイ超高層ビルのランキング  
世界都市への挑戦

### Gateway towers project



事業費:約1000億円

用途:モノレール駅、駐車場、住宅  
階数:地下1階、地上60階  
軒高:250m  
構造:RC造  
延床面積:288,600㎡  
発注者:ナキール(Nakheel)  
設計者:大成建設株式会社  
アトキンス(ATKINS)社

#### Summary 2 Gateway towers

建築面積	21,135.00㎡ (6,393.34坪)
延べ面積	260,316.83㎡ (78,745.49坪) LOAによる <span style="border: 1px solid red; border-radius: 50%; padding: 2px;">288,568.62㎡ (87,292.01坪) ER2による</span>
主要数量	場所打ち杭(径750-1500): 809本 掘削: 151,000m <sup>3</sup> 躯体コンクリート: 204,360m <sup>3</sup> 鉄筋: 33,035t 型枠: 482,324m <sup>2</sup> 外装 硝子・金属パネル: 16,000m <sup>2</sup> GRC: 27,900m <sup>2</sup>
仕上概要	層別: 防水+押入コンクリート 外壁: GRCパネル、ガラスカーテンウォール 内部: (駐車場)床:塗床 壁:RC素地/塗装 天井:RC素地/塗装
設備概要	電気: 受変電・発電機・幹線動力・電灯コンセント・照明器具・電話 衛生: 給水給湯、排水通気、雨水排水、衛生器具、消火、LPG 空調: 冷熱源、空調機器、換気、加圧排煙、自動制御、中央監視 運搬機械: 昇降機 ELV 5基 ESC 2基
別途工事	チューブタワー外装、 <span style="border: 1px solid red; border-radius: 50%; padding: 2px;">モノレール駅舎</span> ・整備場内装、テナント工事

# 受講者層

男	70	87.5%
女	10	12.5%
	80	100.0%
20～29	0	0.0%
30～39	14	17.5%
40～49	45	56.3%
50～59	18	22.5%
60～	3	3.8%
	80	100.0%

製造	50	62.5%
サービス	1	1.3%
専門サービス	0	0.0%
情報通信	17	21.3%
金融	1	1.3%
運輸・物流	0	0.0%
建設	2	2.5%
卸・小売	0	0.0%
コンサルタント	8	10.0%
公的機関	1	1.3%
その他	0	0.0%
	80	100.0%

経営者	5	6.3%
管理職	47	58.8%
専門職	11	13.8%
研究者	15	18.8%
一般	2	2.5%
その他	0	0.0%
	80	100.0%
大手	67	83.8%
中堅・中小	10	12.5%
新規・その他	1	1.3%
外資	2	2.5%
	80	100.0%

## 所属先企業の例)

味の素株式会社、株式会社アルファシステムズ、古河電気工業株式会社、株式会社NTTデータ、エヌ・ティ・ティ・コムウェア株式会社、エヌ・ティ・ティ・コミュニケーションズ株式会社、清水建設株式会社、ウシオ電機株式会社、株式会社日立製作所、株式会社経営共創基盤、株式会社野村総合研究所、株式会社LIXIL、みずほ銀行、出光興産株式会社、ルネサスエレクトロニクス株式会社、マックス株式会社、旭化成株式会社、みらかホールディングス、住友電設株式会社、三井化学株式会社、コニカミノルタ株式会社、アズビル株式会社、株式会社竹中工務店、日本工営株式会社、株式会社商船三井、三井化学株式会社、本田技研工業株式会社、他多数

多様なバックグラウンドを持つ皆さんが、それぞれの経験や知見を基に意見交換やディスカッションを行います

## 7期 修了生の評価(2022年度)

### プログラム修了生へのアンケート

有効回答n: 修了生14名

※5段階評価

Q 「CUMOT × STAMP連携プログラム」授業の総合的な満足度は？

⇒ **平均4.6** (非常に満足 5 ⇔ 1 満足していない)

Q 「CUMOT × STAMP連携プログラム」の授業で学んだことが今後自分の業務に役立つと考えていますか。

⇒ **平均4.6** (非常に役立つ 5 ⇔ 1 役立たない)

Q 今後も「CUMOT × STAMP連携プログラム」の授業テーマに関する学習を継続していきますか。

⇒ **平均4.1** (継続する 5 ⇔ 1 継続しない)

## 7期 修了生の評価(2022年度)

### プログラム修了生へのアンケート

有効回答n: 修了生15名

※5段階評価

Q 「CUMOT × STAMP連携プログラム」の受講を知り合いにも勧めたいと思いますか。?

⇒ **平均4.4** (思う5 ⇔ 1 思わない) ※全員肯定的

Q 受講により、今後、ご自身のキャリアに関連して習得していきたい能力や学びたい分野について、受講前に比べて明確になりましたか(見えてきましたか)。

⇒ **平均4.1** (非常になった5 ⇔ 1 ならなかった)

Q Zoomでの学習環境は良かったですか。

⇒ **平均4.1** (非常に良かった5 ⇔ 1 良くなかった)

- ・オンラインなので、完全に欠席となる回が少なかったのがとてもよかったです。
- ・オフラインで、移動しなくても講義が受講でき効率的でした



# CUMOT × STAMP連携プログラム 1～7期 修了生の評価

## プログラム修了生へのアンケート

**Q 「CUMOT × STAMP連携プログラム」で学んだこと、  
得たことは何ですか。**

実際に経営者からの講義を受けることは貴重な機会でした。

経営者の方には、社会に貢献するという、強い意志があり、それ実現することで、利益、企業の成長があるのではないかと思います。

実体験を伴う講師の方々のお話は常にスケールが大きく、見渡すべき視野の広さや時間の尺度など様々な点において、これまでの自分の見方や考え方は限定的であったと感じるようになった。講師や参加者の方々の話の中には、自分の実務での経験や悩みに当てはめて考えられるようなことが沢山あり、とても参考になった。今後あらためて体系的に学んでいきたい分野について、少し具体化できた。

リーダーシップ論と  
組織マネジメント

- ・経営者の視点や経験
- ・向学心の高い仲間
- ・(自身の)向学心のリカバリー
- ・多少の自信

より視座を高く持ち現在の業務に取り組む姿勢を学びました。また種々の役立つ考え方・テクニックが講義の端々から読み取れました。短時間の講義の中で講師陣の中にロールモデルとしたい点を多数見つけることができました。

# CUMOT×STAMP連携プログラム 5～7期(オンライン形式) 修了生の評価

## プログラム修了生へのアンケート

Q 「CUMOT×STAMP連携プログラム」で学んだこと、  
得たことは何ですか。

Zoomによる講義は参加ロケーションを問わず柔軟に対応することができ、大変参加しやすかったです。

自身が置かれている立場ごとの視座を意識し、物事を客観的に見る目を養うことの大切さを学ぶことができました。

全10回、各2時間(以上)、Zoom開催ながらも非常に密度の濃い学び・気付きの場となりました。

経営層のものごとの考え方、考えるときの目を付ける箇所が、中間管理層とはかなり違っていて、そこが最も学べたところです。

経営者の視点、資質を感じ取れた。また、様々な業界の中での事例を通じて、意思決定をする際の判断基準、目線を勉強することができた。

経験豊富な講師陣、他業種参加メンバーの方々との会話で、様々な意見に触れることが出来、好奇心を持つ重要性を改めて認識出来ました。

# 学習支援システム(GMSS)の導入

## プログラムに参加する社会人の学習環境

- 異なる企業に属する
  - 勤務先や住居の場所も異なる
  - 顔をあわせた議論の場は週に1度の講義の日のみ
  - 発表などグループワークの課題がある
  - 時間を合わせてグループワークを行うには制約がある
  - 講義終了後の対応では時間も限られる
- ➔ グループ内で意見交換やコミュニケーションを行う機会が少ないと、グループワークによる学習効果も期待できない

Web上でディスカッションや意見交換ができる  
GMSS(グループメモリーサポートシステム)を導入し、  
学習利便性を向上

## 議題[498]: GMSS2011を使ってください

表示切替: ( [すべてのパス](#) [すべての意見](#) [代替案のパス](#) [フラット表示](#) )

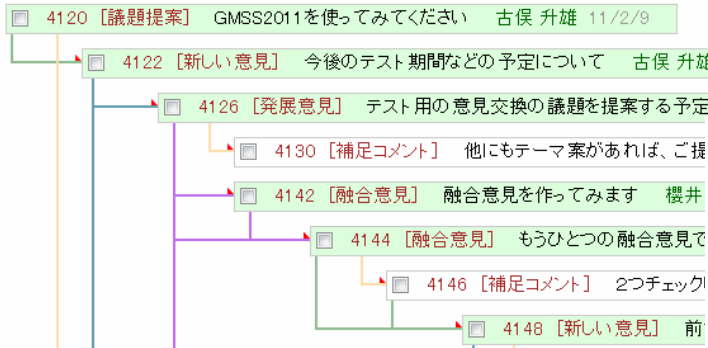
Chat(0msg) 表示更新 一覧へ戻る

意見する  選択  下のメッセージ一覧から自分の発言したい対象となるメッセージのチェックボックスをチェックしてから、このプルダウンメニューから選択してください。

コメントは、**質問・回答・補足コメント**のみで、それ以外は意見を選択してください。  
(1つチェックすると**新しい意見・発展意見**になります。複数チェックすると**融合意見・選択意見**になります。)  
各メッセージの詳細については、[ここ](#)をクリックしてください。

すべて意見・コメントのパスを表示します。矢印の方向に議論が進んでいます。  
つまり、右の方に議論が進行し、新しい意見・コメントになっていきます。

# GMSSのイメージ画面



## コメント入力フォーム

タイトル	<input type="text"/>
発言内容	<input type="text"/>
コメントの種類	補足コメント <input type="button"/>
添付ファイル	<input type="button"/> 参照... ■ファイル名には機種依存文字を使用しない
<input type="button"/> 発言 <input type="button"/> クリア	

発言時に**発言対象と発言種別**  
(**メッセージタイプ**)を選択することで**議論全体の構造化と可視化**を実現  
分散環境下の**コミュニケーション**  
支援とグループ内の**知識蓄積**を実現するシステム

## 選択されたメッセージ一覧

3 [新しい意見] **cumot太郎です** cumot 太郎 20:39

cumot太郎と申します。  
システム開発の仕事をしています。  
1年間よろしくお願ひいたします。

## 【補講用eラーニング】

CUMOT × STAMP連携プログラムでは、講師の了解をいただいた科目においては、欠席者用にwebで見られる補講用のeラーニングをご用意しています。

全ての回をレコーディング、  
事後の復習等、  
全受講生が視聴できる予定

## CUMOT VIDEO ARCHIVES

トップページ

〈20170329ES〉 H29エッセンシャルMOT 受講ガイダンス

2017.3.29 古俣



# よくある質問①

◆CUMOTを受講して本科に進学した場合、単位互換はあるか？

単位互換についてはありません。

本科の入試では、CUMOT修了生に対するMOT専攻入試推薦枠などの特別待遇はありません。ただ、入試はMOTに関する小論文と面接が中心ですので、修了生は、他の受験生よりも受験準備が整っていることとなります。従って、その点で有利になると言えるかと思います。

◆出張などで講義に出席できないとき、eラーニングなどで講義内容を補完するものがあるか？

講義資料は次回講義時にお配りしますが、講義内容の動画コンテンツなどはありません。科目によってはeラーニングコンテンツがあります。

なお、講師の了解をいただけた場合に限り、欠席者フォロー用に録画をして、eラーニングで視聴できるように配慮する場合があります。

◆学割等はあるか？

CUMOTは公開講座にあたるため、受講者の身分は学生ではありません。そのため、大学の図書館なども使用できません。

# よくある質問②

## ◆受講前に、事前に必要な知識はあるのか？

学習テーマによって、事前に資料を読んだり、インターネットで調べてくださいというものもあります。ただ、事前に知識を増やすよりも、その場でしっかり学習して受講後にも学習を継続していただきたいと考えています。

## ◆ほかの講座について教えてください(2022年度実績および2023年度の予定)。

エッセンシャルMOT (1年間コース、4月～2月)

エッセンシャルMOT夏季集中 (4ヶ月間コース、6～9月)

エッセンシャルMOT 秋季 (半年間コース、10月～3月)

知的財産戦略コース (5ヶ月コース、5～9月)

標準化戦略実践コース (5ヶ月コース、5～9月)

サービスイノベーション集中 (1ヶ月コース、2月)

サイバーセキュリティ経営戦略コース (5か月コース、11～3月)

## ◆グループワーク等でグループを組む際に、メンバーにばらつきがあると思うがメンバーのシャッフルはあるのか

グループ編成はテーマごとに行います。グループ編成は、意図的なものは入れずにランダムに組んでいきます。受講期間を通じて、多様な方と交流できるように工夫をしています。相性の良し悪しもあると思いますが、いろいろな方とのグループワークを経験してください。

## よくある質問③

◆個人で会社をやっているが、受講しても大丈夫か？

大丈夫です。いままでの受講生にもいらっしゃいます。

◆小論文(志望理由)で選考するのか？

志望動機に基づいて、プログラムの趣旨とあっているかを審査させていただきます。

◆企業派遣になるが受講料の支払い方法はどうか？

10月中旬に発送予定の受講案内に振込方法について記載しております、指定の口座にお振込いただきます。法人払いでも大丈夫です。振込期日は初回講義前の指定期日がありますが、法人払いなどの場合、個別に配慮しますのでご相談ください。領収書は希望の連絡をいただければ発行いたします。

なお、2023年10月開始のインボイス制度に対応したお支払いのご案内をいたします。



最後までご視聴いただき、ありがとうございました。  
ご質問等がありましたら、eメールまたはお問い合わせ  
フォームよりご連絡ください。

【Mail】 [cumot-info@mot.titech.ac.jp](mailto:cumot-info@mot.titech.ac.jp)

【お問い合わせフォーム】

<https://cumot.mot.titech.ac.jp/form/contact.html>